

第 8 6 5 回

## 定例教育委員会会議録

日 時 令和元年 1 2 月 2 3 日 (月) 1 5 : 0 0 ~

場 所 益田市役所 第 1 会議室

益田市教育委員会

## 第865回 教育委員会定例会

招集年月日 令和元年12月23日(月) 15時00分～

招集場所 益田市役所 第1会議室

議事日程

第1 会議録の承認

第2 教育長報告

第3 議題

報第40号 真砂地区の学校再編の状況について

報第41号 老朽化に伴う学校のトイレ改修計画について

報第42号 令和元年度12月益田市一般会計補正予算について

報第43号 第538回益田市議会定例会一般質問について

報第44号 今後の小中学校のあり方に関する基本指針に基づく小学校及び中学校の具体的な考え方などの答申について

第4 その他

(1) 情報提供

- ・少人数学級編成人数の変更における影響と学校図書館支援事業について
- ・益田市小中学校校長会主催の講演会の開催について
- ・タブレット端末実証研究事業成果発表会の開催について
- ・ひとが育つまち益田フォーラム2020の開催について

(2) その他

出席者

教育委員会

教 育 長  
教 育 委 員  
教 育 委 員  
教 育 委 員  
教 育 委 員

柳 井 秀 雄  
渡 辺 隆  
中 野 純  
舟 橋 道 恵  
村 上 三 恵 子

事務局職員

教 育 部 長  
ひとづくり推進監  
教 育 総 務 課 長  
文 化 財 課 長  
学 校 教 育 課 長  
学 校 教 育 課 参 事  
社 会 教 育 課 参 事  
美 都 分 室 長  
学 校 教 育 課 指 導 主 事  
教 育 総 務 課 長 補 佐  
教 育 総 務 課 係 長  
教 育 総 務 課 主 任

野 村 美 夜 子  
大 畑 伸 幸  
山 本 裕 士  
木 原 光  
田 原 啓 文  
森 脇 達 也  
岡 崎 賢 一  
松 崎 徹  
長 島 靖 和  
齋 藤 勝 義  
田 淵 竜 司  
中 田 香 織



柳井教育長 会議録の承認につきましては、先ほどご承認いただきました。

## 第2 教育長報告

柳井教育長 続きまして、教育長報告をさせていただきます。

特に大きなことにつきましては、12月議会がありました。この点につきましては、後で部長から報告があります。

また、30日にはスクモ塚古墳現地説明会がありました。スクモ塚古墳は、造り出し円墳と言われておりましたが、前方後円墳ではないかということで、そうすると長さが100メートルを超え、島根県で最大の前方後円墳になるということです。現在、大学の先生などが入って地質調査も含め検討されております。現地説明会では、方墳から埴輪などが出ておまして、非常に有力ではあるという説明がありました。

続いて、同じ日の午後には、世界に囲碁を広めた益田市出身の岩本薫先生の碑が高津公民館の玄関の右手に建ち、除幕式がございました。

また、18日には、建設業協会青年部から各学校に絵本の寄贈がありました。子どもたちが小さいうちから物づくりに興味を持って、そういった仕事をする人が一人でも増えてほしいという話をされました。

それでは、この件についてはよろしいでしょうか。

教育委員 =全員了承=

## 第3 議題

### ○報第40号 真砂地区の学校再編の状況について

柳井教育長 それでは、これから第3の議題に移らせていただきます。

報第40号真砂地区の学校再編の状況について、事務局よりお願いします。

齋藤補佐 真砂地区におきましては、平成22年に策定しました益田市立小中学校再編実施計画において、真砂中学校と益田東中学校との再編を具体的な方策とし、これまで地区の保護者等との合意形成に向け進めてまいりました。

しかしながら、再編の話し合いを進めていく中で、学校施設の耐震調査結果において耐震値の低い真砂小学校、真砂中学校の校舎問題等によりまして、学校再編に向けた協議が進まず、平成30年1月には真砂地区の総意として真砂小学校並びに真砂中学校の再編反対及び実施計画の凍結に関する文書が提出され、地域との協議が止まった状況にありました。

昨年の12月に今後の小中学校のあり方に関する基本指針を策定し、

基本指針に市内の小学校また中学校のあり方を具体的に示す中で、今年度に入りまして真砂地区の再編対策協議会と再編等に係る協議を再開できる運びとなり、9月には協議会と調整した結果、真砂地区全保護者を対象としました基本指針の地区説明会を行い、保護者からの意見や同時に実施しました学校再編に関するアンケート集計結果を踏まえまして、大きな課題であります学校再編と学校の施設耐震化の実現に向け、今後さらなる協議を進めていくことを双方で確認したところです。

再編に向け、11月12日に協議会より3つの事項に関する報告を受けました。

1点目は、11月6日に真砂地区全保護者を集めた話し合いの場を持ちまして、保護者の総意ということで中学校の再編に向け進めていくことを決定したということの報告がありました。

2つ目に、再編に向けて協議を進めることについて地域の方の了承も得るべく、11月11日に真砂地区全自治会長を集め、保護者との話し合いの場における決定事項等を説明し、了承され、その後、地区住民へもその旨の周知を行ったということの報告がありました。

3つ目に、説明いたしました2つの内容を記載した文書を作成し、山本市長に直接提出したいという話があり、こちらについては11月18日に市長に対しまして協議会会長より真砂中学校の再編に関する方向性を記載した文書の提出を受けたところです。

今後、真砂中学校の再編に向け、保護者の理解を求めながら進めていくということになりますが、12月17日に真砂公民館において、第1回目となります真砂地区の保護者との話し合いを行いました。ここでは、再編に向けた不安や質問等を挙げていただきました。今後も精力的にそういった場を求めながら、その中で誠心誠意対応していくということで進めていきたいと思っております。

村上委員

保護者の方も地域の方も非常に大きな決断であったと思います。

先ほどの説明にもありましたように、保護者や地域の方のさまざまな不安に対して丁寧な説明をしていきながら進めていかれることと思っておりますが、生徒の皆さんの不安といったところへの対応がまず大事ではないかと考えております。この再編に向けて、まずは生徒の皆さんの不安が少しでも和らいでいけるように、また新しいところでの希望を持って生活ができるように、教育委員会としてもしっかり関わりを持っていきたいと思っておりますが、今、生徒の皆さんのお気持ちなどを把握しておられることがありましたら教えてください。

齋藤補佐

保護者との話し合いの中でも児童生徒さんの不安についてはお聞きしております。その中でも、早い段階から慣れていくということも踏

まえて、交流学習などを多く行ってほしいというご意見も出てきております。教育委員会だけでなく、小学校、中学校とも連携をしながら対応を進めていきたいと考えております。

舟橋委員

質問というわけではありませんが、先ほど村上委員さんからお話が合ったように、私も同様の考えを持っております。

まずは第一に、地域の安心感とそれから信頼感というものをしっかり築いてきたということがこの機に繋がってきていると感じております。丁寧な説明などを繰り返し行ってきた結果だと思えます。地域の皆さんが自分たちで積極的に考え始めておられ、これこそがこれからの益田をつくっていく、持続可能な特色ある地域づくりに繋がっていく、また繋げていかないといけないというところで、これからもしっかりと対応していただきたいと思っております。

柳井教育長  
渡辺委員

ありがとうございます。

地元の皆さんの気持ちについてお話ししたいと思いますが、真砂地域は農林業に対してとても熱心で、産業を興したりして熱心に地域づくりに取り組んでこられた地域です。

限界集落、消滅集落というものが、この益田市の中においてもどんどん進んできているのが現状です。こういった中で、地域の皆様は反対を続けておられましたが、これ以上子どもたちに不便なところ、部活動についても思うようにならないということがあってはならないというところを考え、協力しなければならないという思いと同時に寂しさというものもあったと思えます。

これから小学校のみになりますが、中学校があった時に比べて、地域というのは随分、衰退してくると思えます。ネットなどで調べていましても、限界集落から消滅集落に至って、消滅しても仕方がないという見方が全国の中には多くあります。中学校がないから真砂地区には住めないという話はある話です。ですので、その辺りの気持ちを教育委員会も行政も一体となって支えてあげるのが必要だと思います。住みやすい地域づくりを続けていこうという気持ちを失わせない、挫折させないような協力体制というものを、今後も皆さんと一緒に進めていただきたいと思えます。

柳井教育長  
中野委員

ありがとうございます。

益田東中学校の受け入れ等についてどのような様子になっているのか気になります。現在の計画では真砂中学校と益田東中学校の再編という形になっておりますので、益田東中学校の環境も当然変わってくると思えます。その辺りどうでしょうか。

齋藤補佐

前回の計画の中では、益田東中学校との再編ということになっております。現在の方向性というところですが、本日、学校整備計画審議

会から答申をいただき、今後の学校再編の実施計画を策定するという  
ことになっております。その中では学校名を出した形での計画策定を  
していきます。

先般の保護者との説明会の中でも、以前の計画ということ踏まえ  
て、益田東中学校の話が出ましたが、例えば保護者の方に対しまして  
は、学校の要覧等を資料としてお配りいたしまして、実情というところ  
をまず把握していただきたいということでご説明してきたところで  
す。

今後、いろいろなご質問事項等もあると思いますので、学校と協力  
しながらご回答させていただく中で、受け入れもそうですが、学校側  
にもお伝えしながら進めていきたいと思っております。

中野委員  
舟橋委員

ありがとうございました。

施設の方向性や対応の仕方などいろいろあると思いますが、真砂地  
区はどのような方向性になるのかお話しいただけますか。

齋藤補佐

先ほども申し上げましたが、本日、学校整備計画審議会からの答申  
をいただき、こちらの中でも具体的な流れなどをお示しできると思っ  
ておりますが、今、お話しできることというところでは、小学校は残  
すという方向性です。小学校、中学校の校舎、それぞれ耐震性が低い  
ということですので、早期の耐震化というところも出てくると思いま  
す。そういった意味合いでは、基本指針に基づいて地域と一緒になっ  
て、学校を核とした地域づくりというところに向けて進めていくよう  
な形になります。

舟橋委員

皆さんが納得のいく方向性と、地域発展というところに目を向けて、  
これからどういう場所へどのように建てるのか決めていかれると思  
いますが、是非とも特色ある真砂を自分たちでつくっていくという意欲  
を持たれるように進めていただければと思います。

村上委員

鎌手中学校、西南中学校の再編、これから真砂地区の学校再編の話  
が進んでいくかと思いますが、教育委員会は再編したら終わりという  
ことではなく、例えば中西中学校での様子であるとか、西南中学校の  
生徒さん、鎌手中学校から東陽中学校に行った生徒さんのこと、地域  
との信頼関係など、そういった中でさらなる問題はなかったのかとい  
うところも押さえていただいて、真砂の再編の際に生かしていただ  
けるような話し合いを進めていただきたいと思っております。

齋藤補佐

ありがとうございました。

先般の保護者との話し合いの中でも、中西中学校のことや東陽中  
学校の状況についてご質問いただきました。学校の現状につきまして一  
部ですがお伝えし、今後も話し合いの中でさまざまな質問があると思  
いますので、その都度ご回答していきたいと思っております。

大畑推進監

過去、再編が決まった後に校舎をどのように活性化に使っていくのかということがあり、その回答を行政に求められるということがありました。今後、学校は学校教育のためだけでないところとしてしっかりと多くの方が活用するという建物にしていかないと、行政としても建物の維持だけではもたないという時代になっております。

あわせて、地域自治組織を初めとして、地域全体で子どもたちをどう育てていくのか、次の担い手をしっかりと育てるという意識がないところは、残念ながら後継者としては帰ってこないだろうと思われまます。こういった辺りの教育の主体者は行政だけではないということで現在取り組んでおります。今からつくる学校は、学校教育のためだけではない、みんなで子どもを育てて地域をどのようにつくっていくか、集落運営をどうするのかという大きなひとつづくりであったり、地域づくりの視点の中で学校があるという視点を地域の方と協力して進めていかないといけないと考えております。

足りない部分を補いながら、一緒になって地域を元気にしながら子どもたちをしっかりと育てる主体者になっていただくという取組をしていきたいと思っておりますので、よろしくお願ひいたします。

舟橋委員

それを実現するために、意見が言える会、反対意見や少数意見でも言える雰囲気をつくるということが、今できているのだと思います。今後、地域の皆さんにも自分たちで作り上げていくためにはいろいろな意見を大事にしていくということが、特に小規模では大事なことでありますし、その辺りをしっかりと理解していただけたらと思っておりますのでよろしくお願ひいたします。

柳井教育長  
教育委員

それでは、この件についてよろしいでしょうか。  
＝全員了承＝

#### ○報第41号 老朽化に伴う学校のトイレ改修計画について

柳井教育長

それでは続いて、報第40号老朽化に伴う学校のトイレ改修計画についてお願ひいたします。

田淵係長

12月の定例教育委員会でもトイレ整備の改修に向けた現在の状況ということでご説明をさせていただきました。今回、財政面に考慮しながら年次的に改修するトイレ改修計画を策定いたしましたので、その内容についてご説明いたします。

市内の学校施設においては老朽化が著しい状況にあるということは、ご承知のことと思っております。今後トイレの洋便器化等、3つの柱で構成しました改修にあたっての基本的な考え方を踏まえた改修整備水準をもとに計画を策定しまして、安心安全な教育環境の整備に向けて取り

組んでまいります。

現在のトイレの状況については、資料の7ページに県内のトイレの洋便器化率と益田市の状況について写真を載せてお示ししておりますので、またご確認ください。

計画の内容につきましては、今後5年間の内容を資料の6ページでお示ししております。

市民からいただいた寄附金や国の補助制度を充てながら、老朽化の著しい劣悪な環境であります市内の小学校の状況を鑑みまして、老朽度合いや中心部の学校、中山間の学校を調整しながら、各学校1フロアを5年間で改修する計画になっております。また、5年間でほとんどの小学校の1フロアに関しましては改修を完了するということが計画しております。もちろん以降の改修計画につきましても、この5年間における計画の進捗状況を踏まえまして、市内全学校の完了を目指して5年ごとに計画を策定し公表することとしております。

また、この計画につきましては、次年度策定予定であります個別施設計画へ引き継ぐ計画に位置づけております。

それと、前回、市内の方から益田小学校、益田東中学校、豊川小学校のトイレ改修工事について寄附をいただいたというお話をさせていただきましたが、今回、西益田小学校、横田中学校においても、市内の善意ある寄附者のご厚意によりましてトイレ改修工事をやっていただけることになりました。これにつきましては、12月11日から工事に着工していただいております。このことについて、寄附者の方から年間で1フロアずつ工事を行うという形でさせていただくこととなっております。今回は西益田小学校が古いほうの後館2階フロアの男女のトイレ、横田中学校につきましては教室棟2階の女子トイレにつきまして改修を行っていただくこととなります。あわせて報告させていただきます。

中野委員

資料にあります洋便器化率を見まして少し驚きました。県内でも益田市は進んでいなかったことと、過去の改修をおこなった時期が示されており、それが昭和44年であったり昭和37年であったり、30年間も改修が行われていなかったという事実を知りました。ここまで丁寧に調査をしていただきまして、ありがとうございます。

子どもたちが不安に思う部分というのがトイレであるところは事実であると思っております。一日も早く実施してほしいと思っております。

また、メディアで報道され、自らトイレ改修をしていただけるということで大変ありがたい状況でもあります。今回、トイレ改修について注目されていることでもありますので、またさらに善意ある方も出

てこられるかもしれませんが、私の知人でも今後そのようなことをやっていきたいという方がおりましたので、こういったところも期待しながら、早い時期での改修をお願いしたいと思います。

舟橋委員

奇特な方がおられて、こうして益田市の教育のために、子どもたちのためにやっていただけると、本当にありがたいことでもあります。そのことを、市の広報などで、もっと多くの方に知らせていくところ、また、こうなったというところを少しずつでも知らせていくことが感謝の表れでもありますし、大事なことだと思います。

田淵係長

対応をしていきたいと思います。

あと、1点、洋便器化率につきまして、益田市において100%洋便器化ということではなく、今の18%という大変低い数字をどこまで上げていくかということになってくると思っております。70%ぐらいまでは洋便器化できればと考えているところです。

舟橋委員

全部を洋便器化しては困るという話は前にもしておりますし、70%を洋便器化するのであればある程度満足できる形になると思います。洋便器化だけではなく、多目的トイレというところも目指しているといけないうしろ、臭いのない、衛生面のきちんとしたトイレでなくてはいけませんので、このことをしっかり見据えながら進めていってほしいと思いますので、よろしくお願ひします。

田淵係長

現在、多目的トイレがない学校が多くあります。その中で、多目的トイレは必ず設置していくような形で、フロアでつくれないようであれば、トイレの中のフロアを広げて設置するなど、そういった環境を向上させていくというところは大事だと考えております。少しずつではありますが、トイレ環境の改善について進めていきたいと思っております。よろしくお願ひいたします。

柳井教育長  
教育委員

それでは、この件についてよろしいでしょうか。

=全員了承=

#### ○報第42号 令和元年度12月益田市一般会計補正予算について

柳井教育長

それでは続きまして、報第42号令和元年度12月益田市一般会計補正予算について、事務局よりお願ひします。

大畑推進監

まず、つろうて子育て推進事業費ですが、これは県の補助金が減額されたことに伴い、研修会等に係る費用を減額しております。なお、この研修会については他事業で実施したいと考えております。

次に、ふれあいホールみと維持管理経費については、今年度、施設の点検を実施した中で、ステージに設置してあるライトのワイヤーが経年劣化のため交換が必要だという指摘があり、その交換にかかった

費用について補正するものです。交換については11月に終わっております。

次は、ブックファースト事業費ですが、この事業に対しまして寄附をいただきましたので、財源を増額補正し、乳児検診や2歳時歯科検診で子どもたちに渡す読み聞かせ絵本の購入等をしたいと考えております。

柳井教育長  
教育委員

それでは、この件についてよろしいでしょうか。  
=全員了承=

### ○報第43号 第538回益田市議会定例会一般質問について

柳井教育長

それでは続きまして、報第43号第538回益田市議会定例会一般質問について、事務局よりお願いします。

野村部長

12月定例会の一般質問の概要についてご報告いたします。

今回、一般質問は8名の議員さんに質問をいただいたところです。

大きく項目を申し上げますと、まず二学期制について3名、公民館の喫煙対策について1名、芸術文化振興について1名、三宅御土居等の城館跡についての質問が2名、小中学校のあり方の基本指針について1名、小中学校の学校整備について2名、防災関係でハザードマップの活用についての質問が1名、少人数学級及び図書館司書についてのご質問が1名、食に関するご質問が1名、歴史のまちづくりに関して1名、延べ人数でございますので重複はございません。

まず、佐々木恵二議員からは、二学期制についてご質問いただきました。二学期制については益田市が県内で初めての取組になるということもあって、そういったところを生かす施策として進めていってほしいと話されました。市としましても、未来を担う子どもたちの育成と捉えてしっかりと対応していきたい、また長期休業が学期の間に入るわけですが、そういったものも活用して、子どもたちの学びの継続というものができるといったことも考えていきたいと回答したところです。

また、健康増進についての質問もありました。公民館の敷地内禁煙についての質問でしたが、公民館に通っている児童生徒の割合が増えていますので、そういった実態等も考慮しながら公民館と協議を進めていきたいという回答をいたしました。これは報告になりますが、この庁舎は1月1日より全面禁煙ということで、喫煙所を設けないという対応にやむなくなりました。これは適切な喫煙場所が設けられないと判断したためですが、法律で喫煙に対する環境整備が求められてお

り、決して喫煙が駄目というわけではないですが、吸える環境を整備してほしいというのが法の趣旨です。今のところ現実的にその対応ができないというところが大きい理由ではありますが、今後公民館につきましては、広く地域の方が使われるというところを考えまして、議論をしていかないといけないと考えております。

続きまして、久城議員につきましては、芸術文化についてご質問いただきました。グラントワの活用について、市内で一番集客力のある県施設でございますので、その活用についてさらに取組を進めていきたいとお答えしております。

久城議員の2番目の質問としまして、国指定の史跡の整備関係がありました。端的に申し上げますと、三宅御土居、城館跡等、なかなか地権者の皆様の気持ちにそのまま添えるような対応というのが難しいところではありますが、地域の皆様のご意見をよくお聞きしながら進めてまいりたいというところをお話しさせていただき、まずは、三宅御土居跡の土塁に東西の土塁がございますが、そこに大きな樹木が立っておりますので、これについては伐採を考えているという話をさせていただきます。

続いて、三浦議員からは二学期制についての質問をいただきました。先ほどの佐々木議員からもご質問がありましたように、この二学期制も含めて、教育が本市の未来に与える影響について市長と教育長にそれぞれ聞かれました。市長からは、未来のまちづくり、これを踏まえて、子どもたちの教育を益田の将来に繋げていきたいとお答えしております。教育長からは、学力向上も含めて対応していきたい、益田市で子育てをしてみたいと思ってもらえるように頑張りたいということをお答えしております。

選択導入とした理由についても問われましたが、これについては、学校改革、学校が変わる良い節目であろうという気持ちを教育委員会としては持っておりますので、プロセスを大事にして、どうして二学期制を導入すると決定したのか、もしくは二学期制を導入せずに三学期制のままでいくということになったのか、そういったところのプロセスを大事にすることでより主体的な学校となってもらいたいということをお考えからであるというお話をさせていただきました。

周知につきましては、市P連の研修会に参加させていただくなどいろいろ重ねてきておりますが、今後は広報にも記事を載せていくことにしておりますので、またご覧いただきたいと思っております。

また、今後の小中学校のあり方に関する基本指針についてもご質問をいただきました。より地域づくりに沿ったところを考えて指針をつくりました。そういった意味では一体的な未来の担い手の育成という

ところを本市の目指す姿としておりますので、そこを意識して継続して進めてまいりたいというところを回答しております。

また、施設整備につきましても、学校施設だけではなく複合的なものとしていきたいと話しております。

永見議員につきましては、ハザードマップの活用というところと災害時の避難場所としての学校施設整備についてご質問いただきました。ハザードマップそのものは親子の会話の材料としてなかなか難しいですが、そういったものにも活用すべきではないかというご質問でございました。この質問に対しましては、現状、総合的な学習等でも使っているというところを申し上げました。

また、学級編制基準変更の現状と今後について質問をいただきました。県が今考えておりますものに対して市はどう考えるのかというところを問われまして、学校教育環境から見れば維持するのが望ましいが、人口減少というものに対応するためには知事の考えに益田市長としては理解を示したいという内容の答弁を市長が回答したところでございます。

学校司書の配置の見直しにつきましては、今、小中学校にそれぞれ学校司書と図書館支援員が配置されております。県においては、これをもう少し広い意味で人材を活用したいと考えており、こういった状況をよく確認するとともに、各学校の要望、考え等についても確認して対応していきたいと回答しております。

和田議員については、三宅御土居跡について防災上の対応が必要ではないかという質問があり、できるだけ早く樹木の伐採をしたいと答えさせていただきました。

次に、福原議員からは食と農の関係について、給食センターの地産地消率についてご質問がありました。この質問に対しましては、これからしっかりと取り組んでいきたいと回答しております。

石川議員についても、二学期制についてのご質問がありましたが、佐々木議員等に回答した内容と同じようにお答えしております。

弥重議員は、歴史のまちづくりについて大きく聞かれております。ここまでの動きとこれからの考え方というところで、市の大きい施策の一つであるという認識をしてこれからも歴史を活かしたまちづくりに向かっていくということを市長から述べたところでございます。

一般質問の概要については以上でございます。少し端折ってご説明しましたが、またご一読いただければと思います。

渡辺委員

喫煙の件ですが、学校敷地内喫煙は駄目、公民館も市役所も駄目であれば、たばこを吸われる方はどこへ行って吸われるのですか。

大畑推進監

公民館は第二種施設という枠になり、施設内禁煙となります。6館

は敷地内禁煙としておりますが、その他は裏手や人が出入りしないところで喫煙所を設けており、喫煙ができる状態にしております。市民学習センターについても、建物全体が公民館の機能を持った条例上の施設ですので、裏手の人が出入りしないところに喫煙場所を設置しております。

渡辺委員 たばこを吸う人は10分、20分、席を外して吸っておられると思いますが、敷地内禁煙になりますと、自動車で移動してからたばこを吸ったり、道路に出てから吸うということになるのでしょうか。

大畑推進監 整理しないといけないことは、職員のためではなく、役所や公民館を活用されるのは市民ですので、市民や訪れる方にとっての安全、副流煙のない喫煙場所を設置するということです。職員につきましては、服務規程の中において職務に専念し、常識を逸脱しないような休憩時間や休憩時間等にするとところは職員の中での問題でありますので、まず、安全な喫煙をする環境をつくるというところを整理していかないといけないと思っております。

野村部長 つけ加えますと、議会でもこれは議論がございました。確かに喫煙を駄目と言っているわけではありませんが、今すぐ市役所の建物の中に良好な環境をつくり出す状況ができないということです。法律も吸ってはいけないとは言っていないので、そういうところの認識は持つようにというのが議員さんも言われておりました。ただ、すぐの良い環境をつくるどころの手だてができないという状況です。

柳井教育長 それでは、この件についてよろしいでしょうか。

教育委員 =全員了承=

#### ○報第44号 今後の小中学校のあり方に関する基本指針に基づく小学校及び中学校の具体的な考え方などの答申について

柳井教育長 それでは続いて、追加として、報第44号今後の小中学校のあり方に関する基本指針に基づく小学校及び中学校の具体的な考え方などの答申について、事務局からお願いします。

齋藤補佐 本日、9時から教育長室で、学校整備計画審議会会長であります島根大学教育学部教授の作野会長と、副会長であります吉田小学校校長の領家副会長にお越しいただきまして、教育長にこの審議会に対して3つの事項に関して行った諮問の答申について答申書の提出をいただいたところでございます。

基本指針に基づく小中学校のあり方の具体的な考え方ということで、2つの諮問をいたしました。1つ目は、小学校に公民館、地域自治組織、放課後児童クラブ等の公共機能を取り入れるなどの学校を核とし

た地域づくりを可能にする施設のあり方についてです。2つ目につきましては、中学校について地域的な学校配置のバランスや複数クラス編制が可能な現有施設の状況を考えた学校配置のあり方というところについてです。

また、学校施設整備について、未耐震施設の耐震化及び学校施設の多面的な利用に考慮した地域の拠点施設整備の方向性について諮問しております。

これに対しまして、審議会では3回に渡って審議していただきました。

1回目には、諮問事項の内容、基本指針に係る地区説明の状況、アンケート結果の説明を行いました。2回目には、小中学校の施設整備に対する具体的な考え方の提示をしまして、それに対して審議を行っていただきました。また、午後からは豊川小学校に視察に出向きまして、豊川地区の現状等をご覧いただき、答申の参考にしていただこうということで取り組みました。3回目には、答申案の調整を行ったところです。

それでは、答申の概要について説明をさせていただきます。

まず、小学校の具体的な考え方というところで、基本指針の中でも、既存の小学校は再編しないというところで大きい考え方を示しております。これに基づきまして、学校を核とした地域づくりを進める上で、まず地域の特色を生かした小学生の育ちの仕組みづくり、また地域と学校の連携を進める仕組みづくり、こういったところに視点を置いた答申をいただきました。細かいところでいきますと、地域と学校が連携を進める仕組みづくりというところにつきましては、先ほど言いました豊川小学校、豊川地区の視察を行った際に、学校、PTA、自治組織等、新たな仕組みづくりに向けた話し合いを密にしていく必要性があり、そういったところには日常的に学校と地域を取り持つコーディネーター機能を有する必要性があるということで、この地区にはコーディネーターが配置されております。それらを踏まえまして、適所へのコーディネーター配置の推進等、こういったものについての方策の検討というところも考えたところでございます。

また、地域の特色を生かした小学生の育ちの仕組みづくりというところでは、学校側における連携というところで、中山間地域にある小規模校、こういった中でも学校の中だけではなく大規模な学校や同規模な学校との交流機会を増やしていくことでいろいろな体験を積むことができ、また子どもたちの育ちにも繋がっていくという定義づけをしています。本市においては、タブレット端末等の導入によってICT環境自体が充実しているという状況がございますので、このよう

なところを活用して日々の交流を取り入れていく機会を増やしていく、そういった仕組みづくり等の支援の必要性について答申いただきました。

続きまして、中学校の具体的な考え方ですが、まず1番目、今後10年先までを想定した再編の取組が必要ということで、そのためにも中学校の現状を考慮して、隣接する学校との再編を検討する。2番目として、具体的な考え方を検討する上では、再編対象となる学校との距離や、また生徒、保護者の負担軽減を考慮して、公共交通機関などの生活幹線道路に沿った先にある学校であること、また再編を行った場合の生徒数が対応できる施設の存在があるか、そういったものをもって検討する。3番目に、これらの事項をもとに計画期間を定めて、中学校数の具体的な像を上げ、生徒の教育環境の充実を図るべく再編を進めていくという3点を再編の具体像として示しております。

この具体像を掲げながら、答申の中では、まず5年間で市内の中学校を8校とする再編の具体的な考え方を示しています。その再編の具体的な考え方というところでは、1番目といたしまして、真砂中学校と益田東中学校の再編を検討する。2番目に小野中学校と高津中学校の再編を検討する。3番目に匹見中学校と匹見小学校について同一校舎での運営を検討する。この3つを具体的な考え方として示しております。

審議会の中では、複数学級の編制を確保していくという基本指針の考え方の中で、36人以上という具体的な数字が上がっておりますが、現状としまして市内の10ある中学校の中で再編の対象となる学校につきましては6校ありました。そのうち直近であります中西中学校につきましては、西南中学校との再編を行った後ということもありますし、また中西中学校につきまして昨年度体育館を建設したという現状がございますので、今回につきましては見送るというところ、また美都中学校に関しましては、人数的にももちろん再編対象であるという状況ではございますが、先日も新聞等でありましたが、旧町村単位の中で美都町という中で1つしかない中学校ということで、地域の中でも欠かせない状況というところ、また幅広い年齢層における地域コミュニティを支える場というところなどを踏まえ、実際には益田東中学校との再編を検討したというところではあります。今後さらに生徒数の減少、また学校運営が困難な場合というところでの検討にとどめるような方針になっているところです。

中学校の具体的な考え方というところにつきましては、以上の形の中で進めていくという状況です。

最後に、施設整備に関する具体的な考え方というところで、市内に

は6校の未耐震施設の学校施設があります。もちろん早期耐震化というところをまとめながら進めていく必要性もありますし、地域に存在する公共機能を集約した地域コミュニティーの核、小さな拠点施設への施設整備を検討していくということにつきまして答申書に示されております。

今後、本日いただきました答申を踏まえながら、年度末に策定を予定しております学校再編の実施計画及び学校の施設整備計画の策定に向けて進めていきたいと思っております。

中野委員

諮問事項に小学校の中に放課後児童クラブ等の公共機能を取り入れるということがありますが、現状、学校は学校施設運営としてやっておられて、中には一部、校長先生の許可を得て運営しているところもあるだろうと思っております。

心配していますのは、施設の問題等の施設管理についてですが、今、働き方改革ということで、教職員の皆さんも早目に仕事をおさめられてお帰りいただくということが出てくると思いますが、こういった辺りは教育委員会としてどういった考えがあるか聞いてみたいと思っております。

大畑推進監

児童クラブは、出入り口をピロティー側にするなど対応をされていますので、基本的には問題ないということです。

村上委員

中学校の具体的な再編に向けて、真砂地区では少しそういう動きがある、それから匹見地区では地域の中からもそういった声が上がっていると聞いたことがあります。今回、小野地区について出ておりますが、例えば地区説明会の中とか地区住民の方々が寝耳に水だったという感じではないのでしょうか。地域の中での意見交換、説明会をした中でそういった意見や具体的に希望しているなど再編に関係するようなご意見が出ていたのか教えてください。

齋藤補佐

8月前半のところで小野地区に関しまして再編の基本指針の説明会を開きました。前計画では、小野中学校に関しましては西南中学校と中西中学校と再編というところで実施計画の中に上っておりました。西南中学校につきましては、中西中学校と再編したというのは新しいところだと思います。以前のところでのお話の中で出たのは、大きいところに出ていくわけではなくて、同じ規模のところと再編をしていくことに関しては、いろいろ地域の中でもご意見があったということはお聞きしています。今回、高津中学校との再編というのは、生活幹線沿いの道路としては高津地区のほうが大きく、生徒も多いところではございますし、中央に向けて行くためにも国道を通過しており、交通網についても発達しているというところではあります。

あわせまして、前回の記録の中でも、大きいところに向けてという

ことに関しては、一定程度のご理解をいただけるのではないかという記録も残っております。今後、計画を策定し、地域に出向く時には、そういったところも含めて話し合いをしていきたいと思っております。

村上委員

メディアで報道される時に、地域の方や保護者の方、また生徒さんたちの心情などを踏まえながら、これからの再編に向けた具体的な計画の策定でありますとか、地域での説明会などを丁寧にしていただきたいと思います。

柳井教育長  
教育委員

それでは、この件についてよろしいでしょうか。  
＝全員了承＝

## 第4 その他

### (1) 情報提供

#### ○少人数学級編成人数の変更における影響と学校図書館支援事業について

柳井教育長

それでは第4その他の情報提供に移ります。まず少人数学級編成人数の変更における影響と学校図書館支援事業についてお願いします。

田原課長

これは県が考えておられることではありますが、創生計画の中で県知事が出生率のアップ、それから社会減をなくすことを目標に、他県に先んじた人口減少対策を行っていききたいという取組をされるという中で、現在、子育ての負担を少しでも軽くして、一人でも多くの子どもを産んでいただける環境を整備していききたいというところから考えられていることです。具体的には、子どもの医療費の負担の軽減や、放課後児童クラブの利用時間の延長や待機児童の解消に対する支援等、そういうところを厚くしていききたいというところから出てきた案件でございます。今申しました事業を行うに当たりまして財源が必要でどこから賄っていくかというところから出てきた問題でございます。

国においては、小学校1年生、2年生は35名学級、小学校3年生以上については40名学級が基本となります。その中で、島根県は、少人数学級を行うことで子どもたちにきめ細かな指導を行っていききたいというところから、小学校1、2年生については30名学級、小学校3年生以上、中学校3年生までを35名学級としてきた経過がございます。1クラスの人数を増やし、クラス数を減らすことで教員の数を減らし、先ほどの子育てに関する事業の財源に充てていくということです。

益田市において、もし編成を変えたとしたら、令和元年度5月1日現在の児童生徒数で比較しますと、6つの学校が学級減という形になり、全体で11学級の減ということになります。イコール11人の先

生方の減少というところに繋がっていきます。クラス数が減るだけで済むという問題ではなくて、教員が減ることで、協働しての授業づくりが難しくなったり、年齢層のアンバランス化、一人の先生が担う校務分掌が増えるというところが懸念されます。

県の方向としては、令和2年度は現状維持です。令和3年度からは小学校2年生を32人学級、小学校5年生、6年生、中学校3年生を38人学級にし、令和4年度においては、小学校1年生を32人学級、小学校3年生、4年生、中学校2年生を38人学級としていきたいということでした。

これに伴いまして、島根県全体で令和5年での教員の数は平成31年度で202人の増加がありましたが、その半分102人に減少するということでした。学校においてはさまざまな課題がありますので、その課題対応の加配の教員数として40人は配置していきたいということですので、実際には県内で60人の教員の減少というところでとどめていきたいというのが少人数学級編制人数の変更における影響というところで出てきた問題となっております。

益田市においては、11学級の減というところがございます。そこをどのようにフォローしていくのかということところは課題として上がってくることとなりますが、県が示されております40人の加配の部分をどのような形で配置されるのかということところは未定でございます。益田市では、県とも連絡を密にして情報を得ながら、市として何ができるかということも学校と調整しながら考えていきたいと思っております。

それから、学校図書館支援事業についてです。現状としましては、小中学校の13校に学校司書を配置しており、残りの学校については、図書館支援員という形でボランティアスタッフを配置しております。この事業自体、常に人がいる図書館を目指すというところで県が進めてきた事業ではありますが、この事業をさらに一歩先に進めるというところで、図書館司書の仕事も持ちつつ、さらに一歩踏み込んだ学びのサポーターというような形の人を配置していきたいということが県からの説明でありました。

学びのサポーターは何をするのかといいますと、本を介した心の居場所づくりや人間関係づくりの支援、個別の学習支援をするということですが、特に益田管内でこの説明を聞いたところ、鹿足郡の教育委員会の方も同じ気持ちではあったということですが、それに適応する人材が果たしているのかということところは、難しい部分があると思います。県からは、令和2年度については現状の図書館司書という形で雇用しても構わないが、令和3年度からは学びのサポ-

ターというところを導入していきたいということで、基本的には現在の図書館司書の方々にスキルアップを求めるもので、その養成講座などを準備しながら対応していきたいという話がありました。永見議員の議会の答弁にもありますが、まずは学校がどのようなことができるのか、それに対して益田市としてどのような形で対応できるのかというところをしっかりと協議を行っていききたいと思います。

県費の教職員、県からおりてくる事業のことですので、県の状況に応じて対応していかなければならない部分がありますので、なかなか制約がある中ではありますが、それによって学校が不利益になるかもしれないませんが、その不利益を最小限に抑えていくような取組を行っていききたいと思っております。

柳井教育長 県の動向ですので、その動向等を見据えながら、市の思いも県に伝えながら現在動いているという状況です。この件についてよろしいでしょうか。

教育委員 =全員了承=

#### ○益田市小中学校校長会主催の講演会の開催について

柳井教育長 それでは続いて、益田市小中学校校長会主催の講演会の開催についてお願いします。

森脇参事 資料をつけておりませんが、1月15日に小中学校校長会の研修会が予定されております。毎年1月の小中校長会には研修会が含まれておりまして、本年度は文部科学省の専門教育課におられる大根田さんにお越しいただき講演をしていただく予定になっております。またご案内を資料とともに郵送したいと思っておりますのでご都合がございましたら是非ご出席いただきたいと思います。

柳井教育長 それでは、この件についてよろしいでしょうか。

教育委員 =全員了承=

#### ○タブレット端末実証研究事業成果発表会の開催について

柳井教育長 それではタブレット端末実証研究事業成果発表会の開催についてお願いします。

長島指導主事 本年度、益田市と東京学芸大学、ダイナブックさんとの連携を進めております実証研究事業の成果発表会を2月13日木曜日、グラントワのスタジオ1で行うことになりました。昨年度も教育委員の皆様にはご来席いただいておりますが、改めて今年もご案内をしたいと思います。

桂平小学校、匹見小学校、匹見中学校の実践発表の後、東京学芸大学の森本康彦教授にご講演をいただくことになっております。特に今年度は4月から小学校で全面実施されます新学習指導要領に向けて、キャリアパスポートといいまして、学びの足跡を小学校、中学校、高校と繋いで残していく取組、そこに向けてタブレットをどのように活用したらよいかということについてご講演をいただくことになっております。小学校、中学校、高校、そして島根県教育委員会の方にも来ていただき、広域にわたって益田市の取組を広めていければと思っております。益田市の取組は全国に先駆けて行っており、全国でも活用できればと思っておりますので、お忙しいこととは思いますが、ご来席をよろしく願いいたします。

柳井教育長  
教育委員

この件について、よろしいでしょうか。  
＝全員了承＝

#### ○ひとが育つまち益田フォーラム2020の開催について

柳井教育長

それでは、ひとが育つまち益田フォーラム2020の開催について  
願います。

大畑推進監

ひとが育つまち益田フォーラムを3月7日に開催することとなり、  
現在準備を進めているところです。中学生から高齢者の方までさまざ  
まな方が来られますので、是非参加していただきたいと思ひます。

益田市の事例を広く県外にも知っていただき、多くの方が益田市に  
足を運ぶきっかけとなるようにと思ひております。教育委員会だけで  
はなく、他部局とも一緒になって進めておりますので、ご参加をよろ  
しく願います。

柳井教育長  
教育委員

それではよろしいでしょうか。  
＝全員了承＝

柳井教育長

それでは、次回は1月27日の9時30分から定例教育委員会を開  
催いたします。よろしく願ひいたします。それでは以上で定例教育  
委員会を終了いたします。ありがとうございました。

＝終了時間 16時45分＝